

名づけられた葉

新川和江 しんかわ かずえ

ポプラの木には ポプラの葉
何千何万芽をふいて
緑の小さな手をひろげ
いっしんにひらひらさせても
ひとつひとつのてのひらに
載せられる名はみな同じ〈ポプラの葉〉
わたしも
いちまいの葉にすぎないけれど

あつい血の樹液をもつ
にんげんの歴史の幹から分かれた小枝に
不安げにしがみついた
おさない葉っぱにすぎないけれど
わたしは呼ばれる
わたしだけの名で 朝に夕に

だからわたし 考えなければならぬ
誰のまねでもない
葉脈の走らせ方を 刻みのいれ方を
せいっぱい緑をかがやかせて
うつくしく散る法を
名づけられた葉なのだから 考えなければならぬ
どんなに風がつよくとも



新川和江（一九二九—）
茨城県に生まれた。詩人。

作品に『詩集 生きる理由』『詩の履歴書』『詩が生まれるとき』などがある。

〈出典〉『現代詩文庫64 新川和江詩集』
によった。